

実体顕微鏡で探す小さな化石ときれいな砂粒

保柳康一・石田 桂・近藤はるか・小佐野由布子・大道康智・熊田祐子・吉内佑佳
大場まり恵・牛場健介・中澤理久・荒川淳一・北沢俊幸（地質科学科）

海でたまって固まった岩石や砂浜の砂から、小さな生物の殻を見つけてみましょう。海には、その表面近くを浮遊して生活しているプランクトンが沢山います。また、海底で生活している殻を持った小さな生物もいます。これらの生物の多くはかたい殻におおわれており、死んで海底にたまと体はとけてしまいますが、殻は残って海岸の砂になったり、さらに岩石のなかで化石となって長い年月のあいだ残ります。過去の海底の堆積物や岩石から見つかる小さな生物の化石は、100万年以上前、さらには1000万年、1億年以上前の太古の地球の様子を教えてくれるので、研究にも大変大切なものです。

砂を虫めがねや顕微鏡で見ると、これらの小さな生物の殻の他にもキラキラ輝いている砂粒もみつかります。輝いている砂粒は、火山などの活動で山をつくった岩石がくずれて砂となって運ばれてきた鉱物です。砂粒の中から宝石のように輝いた鉱物も探してみましょう。



165万年前の小さな生物（有孔虫）の化石 大きさはいずれも約0.5mm.